

第3期

資料4

大刀洗 よかまち 創生プロジェクト案



令和7年3月 策定

大刀洗町

– 地方創生総合戦略 –

目次

1. 策定の背景	1
2. 大刀洗町の現状と課題	2
現状	2
課題	6
町の強み	9
3. 策定方針	9
4. 戰略の体系と目標	12
基本目標① 行ってみたい住んでみたい、大刀洗町への人の流れをつくる。	12
基本目標② 子どもも親も、共に輝けるようみんなで応援する。	14
基本目標③ しごとに誇りや、やりがいを感じられるよう応援する。	15
基本目標④ いつまでも暮らしたい、みんなが自慢したくなるまちをつくる。	16
基本目標⑤ 大刀洗町の魅力をみんなで共有し発信する。	17
5. 具体的な取組	20
基本目標①	エラー! ブックマークが定義されていません。
①- 1 交流を促進する「行ってみたい」	21
①- 2 移住を促進する「住んでみたい」	22
①- 3 定住を促進する「ずっと居たい」	23
基本目標②	24
②- 1 出会いから出産までの応援「産みたい」	25
②- 2 育む応援「育てたい」	26
②- 3 子どもの応援「学びたい」	28
基本目標③	29
③- 1 起業・就業の応援「やってみたい」	30
③- 2 魅力ある農・商工業の応援「誇りにしたい」	31
③- 3 多様な人材の応援「活かしたい」	32
基本目標④	33
④- 1 集う繋がるたちあらい「繋がりたい」	34
④- 2 健康長寿のたちあらい「いきいきしたい」	35
④- 3 安全・安心のたちあらい「守りたい」	36
基本目標⑤	37
⑤- 1 魅力の発見「探したい」	38
⑤- 2 魅力の向上「磨きたい」	39
⑤- 3 魅力の発信「届けたい」	40
6. 戰略の実現に向けて	41

1. 策定の背景

日本の急速な少子化・高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくため、2014（平成26）年に「まち・ひと・しごと創生法」が制定された。

法の制定に合わせ、大刀洗町では2015（平成27）年度に「第1期 大刀洗よかまち創生プロジェクト」、2019（令和元年）年度に「第2期 よかまち創生プロジェクト」を策定し、人口、経済、地域社会の課題に一体的に取り組むためのプロジェクトを推進してきた。取り組みの成果もあり、2006（平成18）年をピークに減少傾向にあった人口が、近年は微増傾向に転じている。

しかし長期的には今後、少子・高齢化が一層進展することが見込まれており、人口減少の克服、活力ある地域社会の形成や地域経済の発展などが課題になっている。

そこで、町の実情や第1期、第2期での取り組み及び国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を踏まえ、第5次大刀洗町総合計画との整合性を図ると共に、多様な人材の活躍やSociety5.0の推進、SDGsの実現など新しい時代の流れを力にしながら、人口、経済、地域社会の課題に対する取り組みを更に加速化させるため、「第3期 大刀洗よかまち創生プロジェクト」を策定する。

2. 大刀洗町の現状と課題

■ 現状

(まち)

本町は、福岡市及び久留米市などの都市圏に比較的近く、大分自動車道「筑後小郡 IC」に近いことから、九州内各都市へのアクセスも良く、自動車交通の利便性は高い。



一方、公共交通は、大分自動車道を走る高速バスのバス停が 1 つと路線バスのバス停が 2 つ、鉄道路線が 2 本貫通し、鉄道駅も 3 駅設置されているが、利用者数は減少傾向にある。2022（令和 4）年から、利用者負担額を定額、町内全域を運行区域とした「のりあい定額タクシー」の運行を開始し、自力での移動手段をもたない方の日常生活における移動手段を確保している。また、一部の校区において住民有志による校区巡回バス運行事業も実施されている。

地形については、高低差の少ない平坦な田園風景が広がり、緑豊かな恵まれた住環境を有しており、それを活かして近年は、分譲地開発や賃貸住宅の建設が進められている。

コミュニティに関しては、昔からの集落が残っている地区が多く、隣組や行政区など従来からの地縁組織を基本としながら、小学校区を単位とした 4 校区センターをそれぞれの地域の核として、地域の特色を活かしながら地域力の強化、地域の活性化を進めている。

(ひと)

本町の人口動態を住民基本台帳をもとに分析すると、人口は、2006（平成 18）年をピークに減少傾向にあった人口が、近年は微増傾向に転じている。

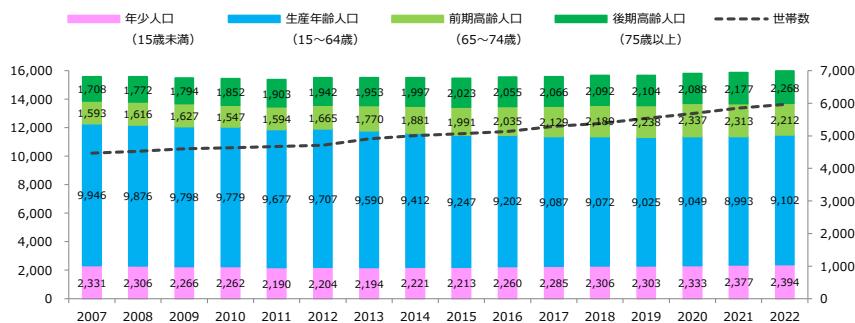
また 3 区分别人口をみると、年少人口は微増傾向にあるが、生産年齢人口は、2007（平成 19）年をピークに減少している。また、老人人口は一貫して増加が続いている。

人口増減の主な要因としては、自然増減（出生、死亡）よりも社会増減（転入、転出）の方が大きな影響力を有している。

世帯数については、人口の動向に関わらず一貫として増加しており、「世帯分離」や「単身世帯」「核家族世帯」の増加により、世帯規模が縮小している傾向がうかがえる。また、近年は外国人人口も増加傾向にある。

菊池校区は、民間による宅地開発等によって人口が増加傾向にあるが、大堰校区の人口は減少傾向にあり、校区や行政区によって人口動態は異なる。人口が減少している地域で、高齢化に伴う担い手の確保や空き家の増加など地域コミュニティの維持における課題が深刻化するおそれがある。一方、人口が増加している地域では、核家族化が進むなかで他市町村からの転入者が増加し、生活が多様化している影響で、従来の地域コミュニティの弱体化、つながりの希薄化が懸念される。

＜年度末人口の推移（差し替え予定）＞



（注）2012（平成24）年から外国人も住基でカウントしている。

（出典）大刀洗町「住民基本台帳」をもとに作成。

（しごと）

＜農業＞

町面積全体に占める田畠面積の割合（耕地率）が高く、ほとんどの農地が農業基盤整備を完了している。また、町北部の未整備農地についても、現在、整備着工中である。

この耕作に適した優良農地を活用し、米・麦・大豆、野菜などの生産農業が盛んである。

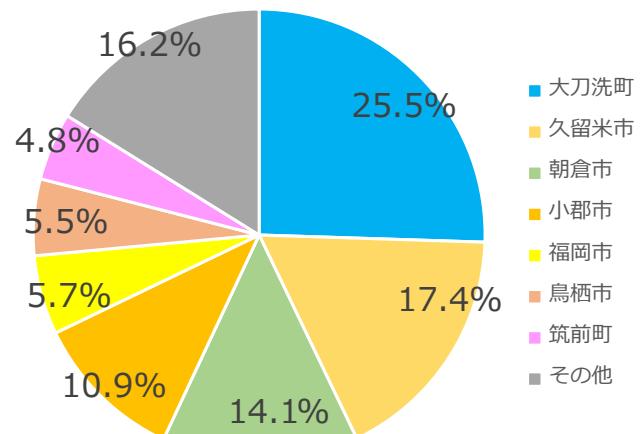
＜商工業＞

本町の北部地域に2つの工業団地を形成して企業誘致を進め、一定の企業集積が図られている。また、近年整備された工業団地にはICに近い等の特性を活かして運輸業や倉庫業の事業所が進出している。

就業者については、約7割が町外に勤務しており、そのうち約2割が福岡市及び久留米市などの都市圏に通勤している。

コメントの追加 [企画財政課1]: 事業完了のため、削除

＜町内常住就業者数と通勤先構成比＞



削除:

(出典) 2020 (令和2) 年 総務省「国勢調査」

■ 課題

(まち)

<交通弱者の増加>

町が全町的に実施している「のりあい定額タクシー」の運行。また一部の校区において、住民有志によるバス運行事業が実施され、自力での移動手段を持たない交通弱者に対する支援を行っているが、将来的には、日常の買い物や通院などに支障をきたす交通弱者の増加が懸念されている。また、自家用車の普及による乗降客数減や運転手不足など路線バスや鉄道を取り巻く環境は厳しさを増している。既存公共交通の維持・確保の観点とあわせて今後も、交通弱者の現状やニーズをしっかりと把握し、効果的で持続性の高い交通対策を実施していく必要がある。

<空き家の増加>

空き家については、2014（平成 26）年 123 戸であったが、2021（令和 3）年の調査では 214 戸と増加しており、高齢者の独居世帯が増加していることを踏まえると、入居者の転居や死亡がそのまま空き家の増加につながることが考えられる。空き家の現状把握にとめ、流通促進や利活用につなげていく必要がある。

<地域コミュニティの弱体化>

コミュニティに関しては、独居の高齢者や高齢者のみの世帯などが増加するものと見込まれる中、地域における見守りが今後益々重要性を増している。また、近年、増加している分譲地開発や賃貸住宅の建設に伴う他市町村からの転入者の増加や、核家族化、少子高齢化が進む中で、生活の多様化や生活範囲の拡大等により、これまでの地域に根ざしたコミュニティを維持することが難しくなってきている。

(ひと)

国立社会保障・人口問題研究所の将来人口の推計によると、2020 年（令和 2）年の国勢調査の人口と比較して 2050（令和 32）年には、総人口が 11.2% 減少（15,521 人 ⇒ 13,781 人）し、年少人口は 19.6% 減少（2,339 人 ⇒ 1,881 人）し、生産年齢人口は 19.4% 減少（8,798 人 ⇒ 7,091 人）、老人人口は 10.5% 増加（4,351 人 ⇒ 4,809 人）となることが予測されている。

高齢者の増加により、社会保障費用の更なる増加が見込まれるほか、介護等で働き方が制限される人や経済的な負担を受ける人が増加することも予測される。

さらに、生産年齢人口の減少による消費・購買の減少が及ぼす地域経済への影響、各方面の担い手不足など町の様々な面に影響があると考えられる。

※ 3 区分別人口は年齢不詳を含んでいないため、合計と一致しない

削除: 軒

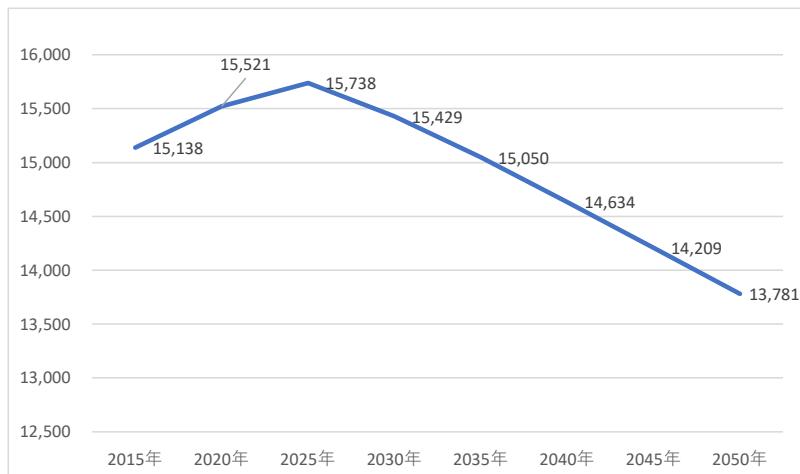
削除: 0

削除: 2

削除: 軒

削除:

＜将来推計人口＞



(出典)2015(平成27年)年・2020年(令和2年)は国勢調査実績値
2025(令和7年)以降は国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口(令和5年推計)

(しごと)

農業分野では、高齢化による離農者の増加に対し、新規就農を含めた後継者育成は進んでいない。農地の多面的機能を保全するためにも、後継者の育成が喫緊の課題である。

また、生産年齢人口の減少により、多方面において労働力が不足していくことが懸念されており、高齢者、女性、障がい者、外国人を含め多様な人材が活躍できるよう支援する必要がある。

企業誘致を進めたことで町内において一定の雇用は生まれているが、雇用力のある都市圏で働く人が多いという現状を踏まえると、消費行動等が町外で行われていることも予測され、農商工業等、既存産業の連携の促進や創業支援など、地場産業の活性化にも力を入れていく必要がある。

(魅力発信)

コメントの追加 [企画財政課2]: 情報から魅力発信へ変更

関係人口の増加に向けて、イベントの告知、観光スポットの紹介といった情報発信だけではなく、まちの雰囲気や田舎暮らしの魅力、いきいきとした町民の顔、休日にはどのような活動ができるかなど、日常・当たり前の中にある魅力を伝え、共感してもらえるような情報発信が必要である。

具体的に移住を検討している方に対しては、豊かな生活環境と交通の利便性の両立や、子育て環境が優れている等の具体的なアピールポイントを、町の施策とともに伝えていく必要がある。

また、発信の手段については、広報・ＨＰなど自前のメディアでしっかりと発信していくことに加えて、第三者の情報発信（マスコミによる発信・口コミやＳＮＳによる発信）の力を最大限活用していくことが必要である。

受け身、一方通行の情報発信ではなく、相手の視点や立場にたち「いかに伝えるか、どのようにすれば伝わるか」を重視する。

町内に商店街や大規模商業施設、観光施設、集客力のある施設等がないことをもって町民自身が「何もない町」と自己評価する一方で、本町にしかない魅力（ヒト・モノ）は当たり前の風景としてスポットが当ててこられなかった。

ふるさとを誇りに思うシビックプライドを醸成することが一つの課題であり、小学生や中学生、高校生など若いうちから町や地域と関わりをもつ機会を増加させ、郷土愛を醸成するような仕組みを構築していく必要がある。

「住み続けたい」、「選ばれる」町になるために町内外へ本町の魅力をアピールしていくかが課題となる。

■ 町の強み

① 自家用車を利用すると交通の便は良い！

高速道路の筑後小郡インターが近く、九州圏内の移動は容易である。

久留米市、朝倉市、小郡市、筑紫野市、どの方面にも30分以内に行くことができる。

② 雇用の場が近隣市町村に充分あり、通勤がしやすい！

久留米市、朝倉市、小郡市、筑紫野市、福岡市、鳥栖市等への通勤が可能である。

③ 大きな病院が近くにあるので安心！

隣接する久留米市には、聖マリア病院や久留米大学病院などの高度先進医療の提供を可能とする病院があり、高度な医療を受けることができる。

④ 家賃、地代が近隣市町村と比較して安い！

住宅地の平均価格が近隣市町村よりも安く、多様でゆとりある住宅の選択が可能である。

⑤ 安心して子どもを育てる環境が整っている！

町内にホタルの生息地がある等、緑豊かな自然に囲まれており、町の治安もよく、幅広い年代が安心して遊ぶことができる公園「大刀洗公園」も整備されている。

また、近隣市町村に比べ保育料が安く、子育てに適した環境が整っている。

⑥ 農作物が豊富に揃っている！

筑後川水系の恩恵を受け水源も豊富であり、基盤整備された優良な耕作地で米・麦・大豆や季節ごとに様々な種類の野菜などが収穫される。

⑦ 誇れる歴史や文化財がある！

赤レンガ造りのロマネスク様式風の教会「今村天主堂（国指定重要文化財）」、奈良時代の地方役所跡の「下高橋官衙遺跡（国指定史跡）」、「西光寺の木造阿弥陀三尊像（県指定文化財）」など、歴史や価値ある文化財が町の中に点在している。

3. 策定方針

■ 計画期間

本戦略の計画期間は、2025（令和7）年度から2029（令和11）年度までの5ヵ年とする。

■ 内容

「大刀洗町人口ビジョン」を踏まえた、大刀洗町オリジナルの戦略とする。

本町の進める「わたしたちが創る 誇れるよかまち たちあらい」を念頭に、町ならではの特色をいかして「活力ある地域コミュニティ」を維持していくために、町を活性化させるとともに、人口減少に伴い生じる様々な課題に備え、将来にわたり安心して暮らしを営むことが出来るよう戦略を策定する。

■ 検討体制

大刀洗町まち・ひと・しごと 創生総合戦略審議会

戦略の策定にあたり、住民・産業界・教育機関・金融機関・言論界など、多様な主体の意見を反映するため、大刀洗町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会を設置する。

大刀洗町まち・ひと・しごと 創生総合戦略策定委員会

まち・ひと・しごと創生に全庁横断的に取り組むため、副町長を中心とし各所属長で構成された委員会を設置する。

■ 目標設定

戦略は、明確な目標を設定し、目標の達成度合いを検証できるよう、客観的な指標（KPI）※を定める。

※ K P I (重要業績評価指標)

Key Performance Indicatorの略。

政策ごとの達成すべき成果目標。

■ S D G s (持続可能な開発目標)

戦略は、2015（平成27）年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された、2016（平成28）年から2030（令和12）年までの国際開発目標である「S D G s (持続可能な開発目標)」の理念と関連させ策定する。

●持続可能な開発目標(SDGs)の詳細



4. 戦略の体系と目標

■ 将来展望（目指すべき姿）

大刀洗町が将来にわたって“よかまち”であり続けるために、「活力ある地域コミュニティの維持」を目指すべき姿とする。

■ 基本目標と基本的方向

【基本目標】

① 行ってみたい住んでみたい、大刀洗町への人の流れをつくる。

本町の人口動態を分析すると、転入・転出者数ともに、人口に対する割合が他団体に比べ高い。多く転入して、多く転出する状況である。また、自然増減よりも社会増減が人口増減に大きな影響を与えている。

社会増減改善のために必要な点として、移住人口の増加（転入者を増やす）のための交流・関係人口拡大施策を進めるとともに、転出抑制のため移住者を含めた現在の大刀洗町民の定住化を促進する。

人口が減少傾向にある大堰校区へは、第5次総合計画策定時の校区別構想において「人口減少をポジティブに乗り切ろう」とあることや大堰校区の強み、特色を踏まえ、住民との対話を重ねながら、人の流れをつくる移住促進策や関係人口施策等を検討する。

（KPI：社会増減（転入者数－転出者数）0人以上を目指す。）

【基本的方向】



コメントの追加 [企画財政課3]: 移住を促進する「住んでみたい」と一体化

【関連する S D G s 】



【基本目標】

② 子どもも親も、共に輝けるようみんなで応援する。

転出入共に、20~40代の動きが多いため、「子育て世代」の転入を促し、転出を抑制する施策が有効であると考える。

削除: 30

また、「子育て世代」が増加することにより自然増減（出生－死亡）はプラスに転じ、年少人口及び生産年齢人口の割合は改善されてくる。

こども家庭センターを中心に妊娠期から子育て期まで切れ目ない支援を行いながら、町の支援制度や子育ての取組みを知ってもらい、活用してもらうために的確に情報発信を行いながら、支援の質を高めていく。あわせて、子どもたちの町での生活や学びの質を高め、健やかに成長していくよう「地域で育つ子どもの視点」を大切にしつつ、行政、地域、学校、家庭、企業が一体となって施策を展開していくことで「子育て世代」「子どもたち」にとって魅力的な町を実現する。

（KPI：出生率 1.64 以上 を目指す。）※数値変更

（KPI：年少人口の割合 14.1%以上 を目指す。）※数値変更

【基本的方向】

出会いから出産までの応援

育む応援

子どもの応援

「産みたい」
「育てたい」
「まなびたい」

コメントの追加 [企画財政課4]: 学びたい→まなびたい
～変更

【関連する S D G s 】



【基本目標】

③ しごとに誇りや、やりがいを感じられるよう応援する。

町に新たな雇用を創出するため、起業意欲のある方の支援「やってみたい」という気持ちを後押しする。

また、町内にある既存産業が持続可能な経営ができるように、後継者等の人材育成、商品の魅力向上（＝付加価値）、道の駅の設置検討、地産地消の推進、同・異業種間ビジネスマッチング等に積極的に取り組み、行政、商工会、農業協同組合、金融機関が一体となって地元産業を応援し、地域で経済が循環する仕組みを構築することで、次世代に誇れる農・商・工業を実現させる。

生産年齢人口の減少により、多方面において労働力が不足していくことが懸念されている。一方で、社会の多様化により働き方やビジネスモデルにも変化が生じている。

そのため、高齢者、女性、障がい者、外国人を含め多様な人材が安心して働き、活躍できるよう支援する。

（KPI：町内事業所の従業員数 5,272 人以上 を目指す。）※数値変更

（KPI：耕作放棄地 1%未満を目指す。）※新規追加

削除: 4,835

【基本的方向】

起業・就業の応援

「やってみたい」

魅力ある農・商工業の応援

「誇りにしたい」

多様な人材の応援

「活かしたい」

【関連する S D G s 】



【基本目標】

④ いつまでも暮らしたい、みんなが自慢したくなるまちをつくる。

町民が、「いつまでも大刀洗町で暮らしたい。」と感じられるように、自分たちのまちへの興味・関心が向上する取り組みを実施し、町民が集い・繋がりながら活動する中で、新たな担い手の確保・育成を促し、まちへの愛着・誇りを醸成する。

また、いつまでも健康でいきいきと充実した生活が営めるように、健康増進施策を充実させ、健康寿命の延伸を図る。

いつまでも安全に安心して快適な生活を営むことができるよう、地域全体の防災・防犯力の強化や交通施策等の充実を図る。

(KPI :「将来も大刀洗町に住み続けたい」と思う割合 80%以上 を目指す。)

【基本的方向】

集う繋がるたちあらい

「繋がりたい」

健康長寿のたちあらい

「いきいきしたい」

安全・安心のたちあらい

「守りたい」

【関連する S D G s 】



【基本目標】

⑤ 大刀洗町の魅力をみんなで共有し発信する。

町にある魅力的な地域資源（ヒト・モノ）を掘り起こし、それを磨き上げ、魅力を向上させる取り組みを行う。

「大刀洗町には何もない」というイメージを払拭するため、町の魅力をみんなで共有する。また、町に当たり前にあるヒト・モノ・風景は町の外（外部の視点）から見たら、
非日常な魅力となりうることから、町内外に大刀洗町ファンをつくり、巻き込み、みんなで大刀洗町の魅力を発信していく。

（KPI：たちあらい応援大使の人数 1,500 人以上 を目指す。）※数値変更

（KPI：大刀洗町公式 SNS のフォロワー等件数 12,000 件以上 を目指す。）※数値
変更

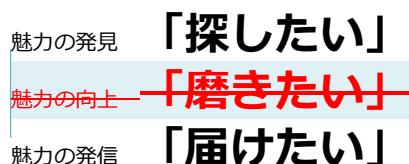
コメントの追加 [企画財政課5]: 魅力発信 WG でのキーワードを挿入

削除: 町外に住む方から見える町の魅力（外部の視点）も大切にしながら、大刀洗町のファンを巻き込み、…

削除: 1,000

削除: 5,000

【基本的方向】



コメントの追加 [企画財政課6]: 「磨きたい」を整理し
「探ししたい」「届けたい」2つの方向へと集約

【関連する S D G s】



【横断的視点】

今後、町において生産年齢人口の減少や高齢化に伴う地域の担い手不足が見込まれている。また、複雑化・高度化した住民ニーズや地域課題や社会の変容に対応しまちづくりをすすめるため、5つの基本目標の分野のすべての取組みを行ううえで、次の2つの視点をもって取り組む。

①デジタル技術を活用したまちづくり

これまでマイナンバーカードを活用した住民票の写し等のコンビニ交付サービスや、素早い情報発信、区長業務の負担軽減のため電子回覧板、町税等のキャッシュレス決済導入等、様々な分野においてデジタル技術の活用に取り組んできた。今後も、町に合った自治体DXを進め、豊かなまちづくりを推進する。

(KPI : オンライン申請利用率 75%)

主な取組み

- フロントヤード改革事業（書かない窓口）
- 町公式LINEの機能拡張

②多様な主体との連携・協働・参画の仕組みづくり

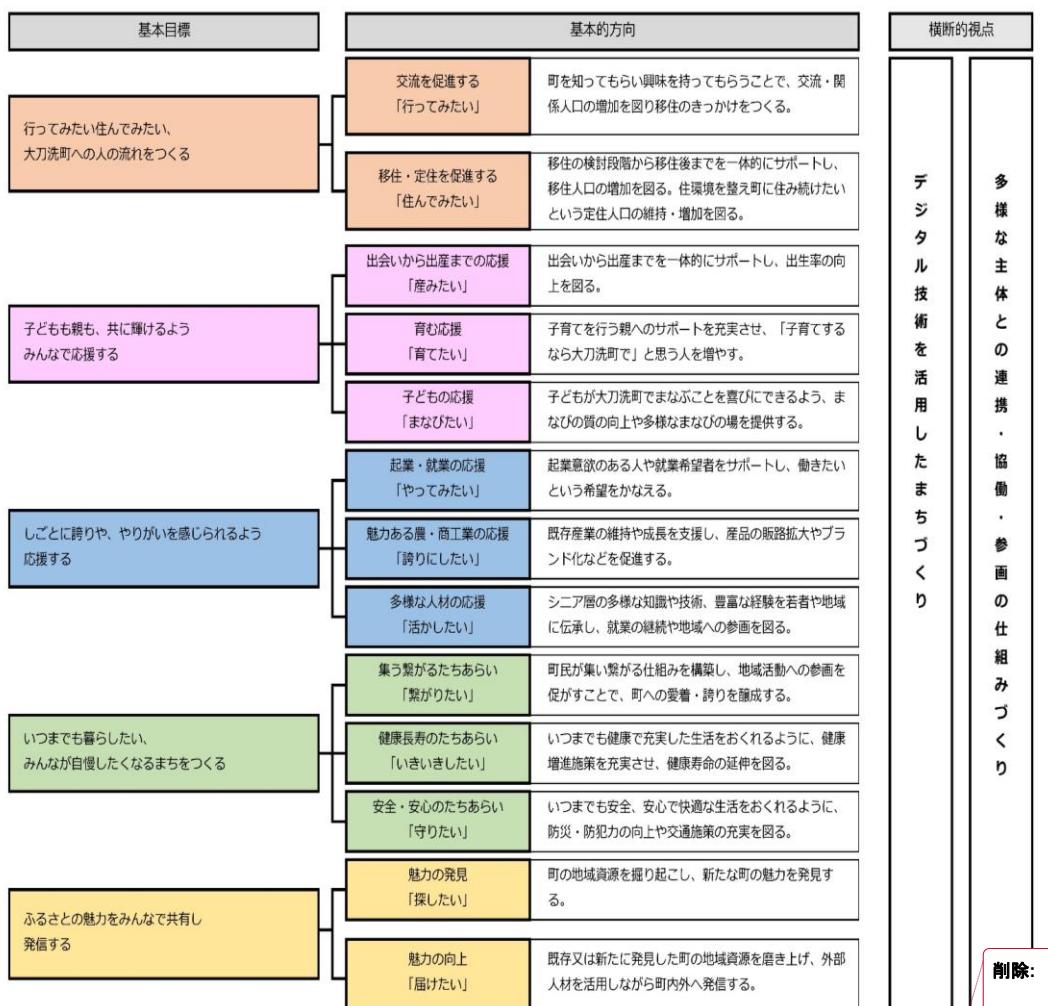
複雑化した地域課題の解決や地域づくりへの新たな担い手確保の観点から、様々な主体（企業・教育機関・福祉事業所等）の知識やノウハウを共有しながら連携・協働し、参画する仕組みづくりを構築していく。

(KPI : 連携協定件数 50件)

主な取組み

- 健康づくり事業（保育園・小学校での食育、ウォーキングイベント等）
- 大刀洗みらい研究所
- 復業人材の活用

■ 体系図 (差し替え)



削除:

5. 具体的な取組

基本目標①

行ってみたい住んでみたい、大刀洗町への人の流れをつくる。

KPI（数値目標）

- ・社会増減（転入者数－転出者数）0人以上 を目指す。

○基本目標を実現するための施策の基本的方向

①-1: 交流を促進する「行ってみたい」

①-2: 移住・定住を促進する「住んでみたい」

①-3: 定住を促進する「ずっと居たい」

①-1：交流を促進する「行ってみたい」

大刀洗町に「定住」してもらうためには、「移住」してもらう必要があるが、そのためには大刀洗町を知る→交流する→ファンになる（町の持つ魅力や価値に共感する）というプロセスを欠かすことができない。

田園の広がる豊かな自然風景や福岡都市圏や中核市である久留米市にも近いなど交通利便性の良さを活かして、大刀洗町への交流を促進する。

具体的な施策	事業の概要	KPI
<u>【既存・新規】 主要事業①</u>	<p>◆町産品を活用したイベントの開催 町産品を活用したイベントを実施し、イベントを機に町への来訪者を増やす。</p>	<p>◆来場者数 ⇒ 10,000 人/年</p>
<u>【新規】 主要事業②</u>	<p>◆ワーケーション事業 都市圏で働く方を対象としたワーケーションプランを作成、町の暮らしを体験してもらうことで交流・関係人口づくりを行う。</p>	<p>◆ワーケーション後も町の関係人口となっている人数 ⇒ 5 人/年</p>
<u>主要事業③</u>	<p>◆「新たな日常」における地域間連携による「民需」 「人の流れ」創出プロジェクト【広域連携】 「新たな日常」の中で「ひと」と「しごと」の好循環化を実現するための様々な取り組みを、久留米広域連携中枢都市圏の自治体が一体となって実施していく。</p>	<p>◆久留米圏域の人口と人口推計の比較 ⇒ 5,374 人</p>
<u>主要事業④</u>	<p>◆レンタサイクル事業 町に訪れた方が町内を巡回し、観光スポットや商店へ移動しやすいようにレンタサイクルを実施する。</p>	<p>◆利用者数 ⇒ 24 人/年</p>
<u>その他 関連事業</u>	<p>・ひばりロードふれあいマラソン大会</p>	<p>削除: 12</p> <p>コメントの追加 [企画財政課7]: ドリームまつりを④-1 「繋がりたい」関連事業へ移動</p>

①－2：移住・定住を促進する「住んでみたい」

大刀洗町の魅力や価値に共感いただいた方や、結婚や就職といったきっかけで引越しすることになった方達に、恵まれた子育て支援策や住宅施策等をアピールして、大刀洗町への移住・定住を後押しする。

具体的な施策	事業の概要	KPI
主要事業①	◆定住促進住宅整備事業 子育て世帯をメインターゲットとするマンションを民間企業と連携しながら整備し、維持管理する。	◆入居率 ⇒ 90%以上
【既存】 主要事業②	◆移住希望者への情報発信強化事業 町ホームページ移住サイトや移住・定住支援B.O.O.K等を活用し、移住希望者への情報発信を強化し、必要な情報を届ける。	◆移住サイトの閲覧数 ⇒ 5,000PV／年
主要事業③	◆移住・定住相談事業 移住・定住に役立つ情報をまとめたワンストップ窓口を企画財政課内に設置する。オンライン対応など相談しやすい環境を整える。	◆相談窓口利用件数 ⇒ 18件/年
主要事業④	◆移住支援金交付事業 三大都市圏から就業又は起業を伴い町に移住した場合に、移住にかかる費用の支援として支援金を交付する。	◆交付件数 ⇒ 2件/年
主要事業⑤	◆空き家利活用総合プロジェクト 空き家の情報を提供できるシステムを活用し、不動産業者等と連携を図りながら、空き家の所有者と移住希望者のマッチングを行い、空き家のフル活用を目指す。	◆空き家の活用件数 ⇒ 3件/年
主要事業⑥	◆住宅改修補助金交付事業 住んでいる住宅を町内の施工業者によって改修をした場合に、その費用の一部を補助する。	◆移住後1年内に完了する住宅改修に対する交付件数 ⇒ 2件/年 ■空き家の改修に対する交付件数 ⇒ 2件/年
その他 関連事業	・大都市圏等における移住促進事業【広域連携】 ・移住体験事業<再掲>・住宅性能向上改修の補助	コメントの追加 [企画財政課8]: 住宅耐震改修の補助→住宅性能向上改修の補助

~~【削除】~~ ①- 3 : 定住を促進する「ずっと居たい」

大刀洗町に移住してきた方達に「いつまでも住み続けたい」と思ってもらえるよう、居住や生活環境、まちの魅力など総合的なまちづくりの更なる充実に努める。

具体的な施策	事業の概要	KPI
主要事業①	◆定住促進住宅整備事業<再掲> 子育て世帯をメインターゲットとするマンションを民間企業と連携しながら整備し、維持管理する。	◆入居率 ⇒90%以上
主要事業②	◆移住・定住相談事業<再掲> 移住・定住に役立つ情報をまとめたワンストップ窓口を地域振興課内に設置する。	◆相談窓口利用件数 ⇒ 12 件/年
主要事業③	◆住宅改修補助金交付事業 住んでいる住宅を町内の施工業者によって改修をした場合に、その費用の一部を補助する。	◆空き家の改修に対する交付件数 ⇒ 1 件/年
その他 関連事業	・住宅耐震改修の補助	

基本目標②

子どもも親も、共に輝けるようみんなで応援する。

KPI (数値目標)

- ・出生率 1.64 以上 を目指す。【数値変更】
- ・年少人口の割合 14.1%以上 を目指す。【数値変更】

○基本目標を実現するための施策の基本的方向

② – 1 : 出会いから出産までの応援 「産みたい」

② – 2 : 育む応援 「育てたい」

② – 3 : 子どもの応援 「まなびたい」

削除: 学びたい

②－1：出会いから出産までの応援「産みたい」

出会いから出産までを一体的にサポートし、出生率の向上を図る。また、出産までのサポートに留まらず、産後のケアについても充実させる。

具体的な施策	事業の概要	KPI
主要事業①	◆こんにちはお母さん事業 産後の母親の心身の安定や、育児不安の軽減を図るために、産後ケア事業者と連携し、産後に不安を抱える方を支援する様々な種類のケアメニューを導入する。	◆相談できる環境が整っている人の割合 ⇒ <u>98%以上</u> 削除: 80
主要事業②	◆結婚生活支援金事業 婚姻に伴う経済的支援負担を支援するため、住宅費用、住宅リフォーム費用及び引越し費用の一部を補助する。	◆交付件数 ⇒ 20 件/年
その他 関連事業	・パパママ学級事業 ・妊婦健康診査補助事業 ・乳児家庭全戸訪問事業 ・子育て世代包括支援センター	

②－2：育む応援「育てたい」

子育てを行う親のサポートを充実させ、「子育てするなら大刀洗町で」と思う方を増加させる。また、親のみのサポートに留まらず、地域で一体となり子どもを育てる仕組みを構築していく。

具体的な施策	事業の概要	KPI
主要事業①	◆イキメン創生プロジェクト事業 男性の子育て・地域活動への参画を促すために、男性の積極的な子育て参画を目指し、意識を変えるための講座を実施する。	◆参加者数 ⇒ <u>120</u> 人/年
主要事業②	◆子育て相談事業 子育てに不安を抱える保護者等を支援するために、子育て相談に特化した専門職員を配置し、巡回支援する。	◆子どもの虐待関連死ゼロの維持
主要事業③	◆子どもへの暴力防止プログラム事業 町職員、学童保育所指導員、保育園・小学校・中学校の児童、教職員、保護者向けの「子どもへの暴力防止プログラム」ワークショップを実施する。	◆支援者数 ⇒ 220 人/年 ◆開催回数 ⇒ 40 回/年
主要事業④	◆保育士奨学金返済支援事業 町内の保育園に勤務する保育士が奨学金を返還している場合に、その費用の一部を補助する。	◆定員を下回って受け入れる保育園ゼロの維持
【削除】主要事業⑤	◆待機児童支援事業 認可保育所を希望したが入所できずに認可外保育施設、または企業主導型保育所を利用している者に対して補助金を交付する。	◆待機児童数 ⇒ 0人
【既存】主要事業⑥	◆出生記念品（大刀洗ベビーギフト）事業 町内在住の新生児を出産した保護者を対象に、町内のつくり手が「もの・コト」ギフトを提案するカタログを送付し、出産後の暮らしを応援する。	◆活用人数の割合 ⇒ 40%/ 削除: ⑥
【既存】主要事業⑦	◆子育て世帯への情報発信強化事業 母子モモや町ホームページ子育てサイト等を活用し、子育て世帯に向けた情報発信を強化し、必要な情報を届ける。	◆子育てサイトの閲覧数 ⇒ 6,000PV/年 削除: ⑦

その他 関連事業	<ul style="list-style-type: none">・保育料多子減免事業・病後児保育事業・学童保育事業・乳幼児医療費補助事業・延長保育事業・子育て支援センター事業・病児・病後児保育事業【広域連携】・小児救急医療支援事業【広域連携】
-------------	--

②-3：子どもの応援「まなびたい」

削除: 学びたい

子どもが、大刀洗町でまなぶことを喜びにできるよう、「まなびの質」を向上させる。
学び=学問だけではなく、町の特色を活かした多種多様な「まなびの場（機会）」を提供することで郷土愛を育み、まなびたいと考える子どもを後押しする。また、子どもたちが健やかに育つよう地域での居場所づくりを応援する。

具体的な施策	事業の概要	KPI
主要事業①	◆コミュニティ・スクール事業 学校運営に、保護者や地域の方が参画することで、学校と地域の力を合わせ、それぞれの立場で主体的に地域の子どもたちの成長を支援する。	◆保護者・地域等の <u>のべ活動者数</u> ⇒ 1,000人/年
<u>【既存】 主要事業②</u>	◆子どもの居場所づくりの支援・検討 <u>学童保育所</u> 以外にもアンビシャス広場やチャレンジ教室など子どもが自分らしく過ごせる場所や友だちと関わることのできる場所を地域全体でつくる取組みを支援・検討する。	◆子どもの居場所数 ⇒ 15か所
その他 関連事業	・特別支援教育総合推進事業 → <u>アンビシャス広場</u> ・G I G Aスクール構想 → <u>こども自立サポートセンタードリーム</u>	

削除:

基本目標③

しごとに誇りや、やりがいを感じられるよう応援する。

KPI（数値目標）

- ・町内事業所の従業員数 5,272 人以上 を目指す。【[数値変更](#)】
- ・耕作放棄地 1 %未満を目指す。【[新規追加](#)】

削除: 4,835

○基本目標を実現するための施策の基本的方向

③－1:起業・就業の応援「やってみたい」

③－2:魅力ある農・商工業の応援「誇りにしたい」

③－3:多様な人材の応援「活かしたい」

③－1：起業・就業の応援「やってみたい」

企業等へ就職を希望する方をサポートするとともに、起業意欲のある方を後押しできるような取り組みを行い、やってみたい、働きたいという希望を後押しする。

具体的な施策	事業の概要	KPI
主要事業①	◆創業支援相談事業 商工会と金融機関と連携し、企業に関するワンストップ窓口を設置し、起業希望者向けのセミナー等を実施する。	◆事業を通じた起業件数 ⇒ 6件/年
主要事業②	◆創業・新事業展開支援補助金交付事業 町内での創業や新事業展開に必要な経費の一部を補助する。 ※移住や雇用増の場合増額する (+10万円) (最大60万円)	削除: 起業件数 ⇒ 1件/年 ◆支援件数 ⇒ 2件/年
【既存】 主要事業③	◆求人情報等掲載事業 町内事業所の求人情報等を町ホームページや役場等に掲載し、町内事業所の人材確保につなげる。	◆就業マッチング数 ⇒ 30件/年
【新規】 主要事業④	◆新規就農者支援事業 新たに事業承継を行い、農業経営を始めた方に支援を行う。	◆事業を通じた承継人數 ⇒ 3人/年
その他 関連事業	・農地中間管理事業 ・農業委員会農地斡旋事業 ・次世代農業者育成事業	

③－2：魅力ある農・商工業の応援「誇りにしたい」

町内にある既存産業が、持続可能な経営ができるように、商品に付加価値をつけたり、ビジネスマッチングなどを行う取り組みを応援する。

また、地産地消の取り組みを推進し、地域での経済が循環できるよう支援する。

具体的な施策	事業の概要	KPI
主要事業①	◆消費喚起プレミアム商品券発行事業 町内事業所での消費を喚起するための商品券を発行する。	◆商品券による町内消費金額 ⇒ 1.2 億円/年
【新規】 主要事業②	◆大刀洗町活性化企業会 町内企業の連携を強化するため、新たな企業組織を構築する。交流会や支援セミナーを開催し、新たな企業間のビジネスマッチングや、地域課題の解決を図る。	◆参加企業数 ⇒ 30 件 ◆企業会を通じた連携数 ⇒ 10 件/年
【⑤-1 から移動】 主要事業③	◆ふるさと応援寄附事業 町内産品の魅力を伝え、町外から寄附を集めることで町内事業者の活性化を図る。	◆応援寄附受入額 ⇒ 12 億円/年
主要事業④	◆「新たな日常」における地域間連携による「民需」「人の流れ」創出プロジェクト【広域連携】 「新たな日常」の中で「ひと」と「しごと」の好循環化を実現するための様々な取り組みを、久留米広域連携中枢都市圏の自治体が一体となって実施していく。	◆久留米圏域の就職者数 ⇒ 6,782 人
その他 関連事業	◆北部地区基盤整備事業 ・集落営農組織法人化支援事業 ・園芸施設等整備事業 ・道の駅の設置検討 ・物産展共同開催事業【広域連携】 ・広域商談会開催事業【広域連携】	コメントの追加 [企画財政課9]: KPI 冊数から変更 コメントの追加 [企画財政課10]: 事業完了のため、削除

③－3：多様な人材の応援「活かしたい」

生産年齢人口の減少により、多方面において労働力が不足することが懸念される一方で、社会の多様化により働き方やビジネスモデルにも変化が生じている。

そのため、高齢者、女性、障がい者、外国人を含め多様な人材が活躍できるよう支援する。

具体的な施策	事業の概要	KPI
主要事業①	◆町民参加型マルシェ支援事業 高齢者、女性、障がい者、外国人など多様な人材が参加する市場を運営・支援する。	◆事業参加者数 ⇒ 100 人
主要事業②	◆シルバー人材センター事業 就労の意欲をもつ 65 歳以上の高齢者に対し、その能力に応じた雇用・就労の機会を提供できるよう支援する。	◆登録者数 ⇒ 100 人
【既存】 主要事業③	◆求人情報等掲載事業【再掲】 町内事業所の求人情報を町ホームページや役場等に掲載し、町内事業所の人材確保につなげる。	◆就業マッチング数 ⇒ 30 件/年
その他 関連事業	・就労移行支援事業	

コメントの追加 [企画財政課11]: KPI を出品者数 100 人から変更

基本目標④

いつまでも暮らしたい、みんなが自慢したくなるまちをつくる。

KPI（数値目標）

・「将来も大刀洗町に住み続けたい」と思う割合 80%以上を目指す。

○基本目標を実現するための施策の基本的方向

④-1: 集う繋がるたちあらい「繋がりたい」

④-2: 健康長寿のたちあらい「いきいきしたい」

④-3: 安全・安心のたちあらい「守りたい」

④-1：集う繋がるたちあらい「繋がりたい」

地域への興味・関心が向上する取り組みを行うとともに、住民が集い、繋がる仕組み、きっかけづくりを行うことで、新たな担い手の確保・育成を促し、地域への愛着や誇りを醸成、地域活動への参画を促進する。

具体的な施策	事業の概要	KPI
【削除】主要事業①	<p>◆同窓会推進事業 町を離れた方に対して、町に帰つてくる機会を創出するため、町内で開催される町外在住者を含む同窓会開催に係る費用の一部を助成する。</p>	<p>◆同窓会開催件数 ⇒ 12 件/年</p>
主要事業①	<p>◆公共空間活性化事業 公共空間を利用した町外者を含む体験型講座を自ら企画開催する方に対し、開催に係る費用の一部を助成する。</p>	<p>◆体験講座開催件数 ⇒ 12 件/年</p>
【既存】主要事業②	<p>◆対話推進事業 対話によるまちづくりを進める、地域のなかで対話を進める人や主体的にまちづくりに関わる人づくりを進める。</p>	<p>◆町民の対話事業参加人数 ⇒ 150 人/年</p>
その他関連事業	<p>・<u>校区センター活動の支援</u> ・<u>地域おこし協力隊の配置</u> <u>・ドリームまつり</u> ・<u>町民体育大会</u></p>	

削除: 集落支援員の配置

コメントの追加 [田中 佳倫12]: 町民体育大会を④-2から移動

④－2：健康長寿のたちあらい「いきいきしたい」

いつまでも健康で充実した生活を営むことができるよう、健康増進施策を充実させ、町民の健康寿命の延伸を図る。

具体的な施策	事業の概要	KPI
【削除】 <u>主要事業①</u>	◆たちあらい型健康促進システムの構築 地域ぐるみの健康増進やイベント講座の実施等、健康づくりに関連する取組みを一連的に構築する。	◆分館体操開催 ⇒25分館
【既存】 <u>主要事業①</u>	◆通いの場の補助金交付事業 高齢者の生きがいづくりや健康づくりを行うサロンの運営に町が補助金を交付する。	◆通いの場所数 ⇒12件/年
<u>主要事業②</u>	◆大刀洗町健康ポイント事業【広域連携】 健康寿命の延伸を目指し、町民に対して健康づくりを広く呼びかけるとともに、日常的な運動や町や地域が開催する健康づくりに対する取組みへの参加に応じて健康ポイントを付与する。	◆特定健康診査 受診率 ⇒ 60%
その他 関連事業	→健康診断推進事業	・健康体操推進事業・高齢者補聴器購入費助成事業

④－3：安全・安心のたちあらい「守りたい」

いつまでも安全に安心して快適な生活を営むことができるまちであるために、防災・防犯力の強化や交通施策等の充実を図る。

具体的な施策	事業の概要	KPI
主要事業①	◆のりあい定額タクシー事業 移動手段を充実させるため、タクシー事業者と連携し、利用者負担を定額とする乗合タクシーを運行する。	乗車人数 ⇒20人/日以上
【削除】 主要事業②	◆夫刀洗パークアンドライド等整備事業 公共交通の利用促進と通勤通学の支援のため、公共交通機関を利用する方の駐車場等を整備する。	整備箇所数 ⇒5箇所
【既存・新規】 主要事業②	◆公共交通利便性向上・利用促進事業 利用者数が減少している鉄道・バス事業者と町役場での連携や公共交通マップ作成等をとおして公共交通の維持・確保を行う。	◆鉄道駅の乗降客 ①大堰駅 369人/日 ②本郷駅 365人/日 ③西太刀洗駅 184人/日
主要事業③	◆防災士育成事業 地域の防災力を強化するため、各校区において高い防災知識を有する防災士を育成する。	防災士の地域での活動件数 ⇒ 4件/年
その他 関連事業	・防災組織強化事業 ・防犯・交通整備事業 ・町道維持補修事業	削除: 防災士の育成数 削除: 40人

基本目標⑤

大刀洗町の魅力をみんなで共有し発信する。

KPI (数値目標)

- ・たちあらい応援大使の人数 1,500 人以上を目指す。【数値変更】
- ・大刀洗町公式SNSのフォロワー等件数 12,000 件以上を目指す。【数値変更】

削除: 5,000

削除:

○基本目標を実現するための施策の基本的方向

⑤- 1: 魅力の発見「探したい」

⑤- 2: 魅力の発信「届けたい」

削除: ⑤- 2: 魅力の向上「磨きたい」

削除: 3

⑤-1：魅力の発見「探したい」

町にある魅力的な地域資源（ヒト・モノ）を掘り起こすため、町を見つめ直し、新たな町の魅力を発見する。また、町民も発信の主体となる取組みを実施し、町への愛着を育てながらともに魅力を発信する。

削除: 外部人材も活用しながら

具体的な施策	事業の概要	KPI
【③-2 へ移動】 <u>主要事業④</u>	<p>◆特產品掘り起こし事業 町民の方と語り合い、暮らしの中にある町の特產品を掘り起こしていく。</p>	<p>◆ふるさと納税 お礼品数 ⇒ 200品</p>
主要事業①	<p>◆広報「たちあらい」つながるコーナー事業 町で輝く人にスポットをあて広報紙で紹介し、町民同士の繋がりや、暮らす人々の魅力を発信する。</p>	<p>◆紹介件数 ⇒ 12件/年</p>
【新規】 <u>主要事業②</u>	<p>◆子ども広報部事業 中学生を町の広報部に任命し、取材活動や広報紙面づくりを通して町の取組みと一緒に伝える。</p>	<p>◆情報発信件数 ⇒ 2件/年</p>
主要事業③	<p>◆「新たな日常」における地域間連携による「民需」「人の流れ」創出プロジェクト【広域連携】 「新たな日常」の中で「ひと」と「しごと」の好循環化を実現するための様々な取り組みを、久留米広域連携中枢都市圏の自治体が一体となって実施していく。</p>	<p>◆久留米圏域の直接消費額 ⇒ 19,319百万円</p>
その他 関連事業	・残したいふるさとの風景事業	削除: ②

~~【削除】⑤-2：魅力の向上「磨きたい」~~

書式を変更：フォントの色：赤、取り消し線

~~既存または新たに発見した町の地域資源（ヒト・モノ）を磨き上げ、魅力を向上させる取り組みを行う。~~

具体的な施策	事業の概要	KPI
<u>【⑤-2「届けたいへ移動】</u> 主要事業①	◆食・農ツーリズム事業 大型の観光施設ではなく、暮らしの中にある身近な素敵スポット（アナバ）を町民等が紹介する冊子を作成する。	◆魅力スポット紹介件数 ⇒ 80 件
<u>【⑤-1「探したいへ移動】</u> 主要事業②	◆「新たな日常」における地域間連携による「民需」「人の流れ」創出プロジェクト【広域連携】 「新たな日常」の中で「ひと」と「しごと」の好循環化を実現するための様々な取り組みを、久留米広域連携中枢都市圏の自治体が一体となって実施していく。	◆久留米圏域の直接消費額 ⇒ 19,319 百万円
その他関連事業	いずれも【⑤-2「探ししたいへ移動】 ・まち旅博覧会開催事業【広域連携】 ・歴史遺産等活用事業【広域連携】	

⑤-2：魅力の発信「届けたい」

削除: 3

情報の共有と拡散を担う外部の人・拠点を活用し、発見した魅力は、磨きあげる。町の魅力ある情報を町内外へ届ける取り組みを行う。

具体的な施策	事業の概要	KPI
主要事業①	<p>◆たちあらい応援大使事業 町に縁や愛着を持つ人を町公認の大使に任命し、各人が出来る広報活動を通して、町の魅力やイベント情報の発信を行う。</p>	<p>◆応援大使の人数 ⇒ 1,500 人</p> <p>◆応援大使の活動件数 ⇒ 150 件</p>
主要事業②	<p>◆たちあらい応援大使店舗事業 町外に「たちあらい応援大使店舗」を募り、加盟店舗に大刀洗の食材のPRの一端を担ってもらうことにより地域ブランド力の向上を図る。</p>	<p>◆応援大使店舗数 ⇒ 30 店舗/件</p>
【⑤-1から移動】 主要事業③	<p>◆FLAT事業 暮らしの中にある身近な魅力スポット(アナバ)を町民等が紹介する冊子を作成する。</p>	<p>◆スポット紹介件数 ⇒ 120 件</p>
【既存】 主要事業④	<p>◆広報モデル事業 広報たちあらいの表紙や町の事業のポスターやチラシなどに登場し、広報に協力いただける方を広報モデルとして登録する。</p>	<p>◆活用人数 ⇒ 10 人/年</p>
その他 関連事業	<p>→ SNS活用事業・ラジオ放送事業【広域連携】 ・イベント情報・観光ルートパンフ作成事業【広域連携】 ・インターネット情報提供「ちくご遊学」運営事業【広域連携】 ・まち旅博覧会開催事業【広域連携】 ・歴史遺産等活用事業【広域連携】</p>	

削除: 1,000

削除: ◆応援大使店舗の件数
⇒ 10 件

コメントの追加【企画財政課13】: 食・農ツーリズム事業から事業名変更

削除:

6. 戦略の実現に向けて

■ 推進体制

戦略の目標を実現するために、行政のみならず、町民や地域、それぞれの分野における関係団体と連携して施策を実施していく。

また、P D C Aサイクル※に基づき、外部有識者等の意見も踏まえ、実施した施策や事業の効果を検証し、必要に応じて総合戦略を改訂するものとする。

※ P D C Aサイクル

P L A N (計画) D O (実施) C H E C K (評価) A C T I O N (改善)

4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、不断のサイクルとし、

継続的な改善を推進するマネジメント手法。